

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年11月10日
枚方市立楠葉中学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

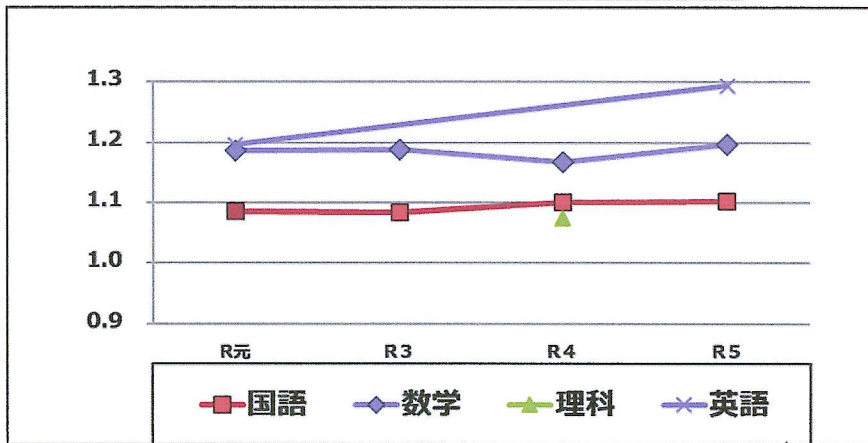
【全体概要】

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

（全国の平均正答率を1とした経年比較）



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、令和5年度未実施の為、掲載していません。

＜学力調査結果の概要＞

○国語について

→すべての問題で全国や大阪府の正答率を上回っており、特に記述式の問題に関しては正答率や無解答率は全国や大阪府と比較してもとても高い結果であった。

○数学について

→すべての問題で全国や大阪府の正答率を上回っており、特に記述式の問題に関しては正答率や無解答率は全国や大阪府と比較してもとても高い結果であった。各詳細については、下記に示す。

○英語について

→全体を通してよくできていることから、基礎的な学力は身につけていると考えられる。平均正答率が学習指導要領（1）聞くこと69.2%（全国58.4%）（2）読むこと62.4%（全国51.2%）（5）書くこと40.9%（全国23.4%）であることから、自分の意見を英語で書くという設問ができていないことが顕著に表れている。今後の課題としては、自分の意見を英語で書くことができるようにしていくことが挙げられる。

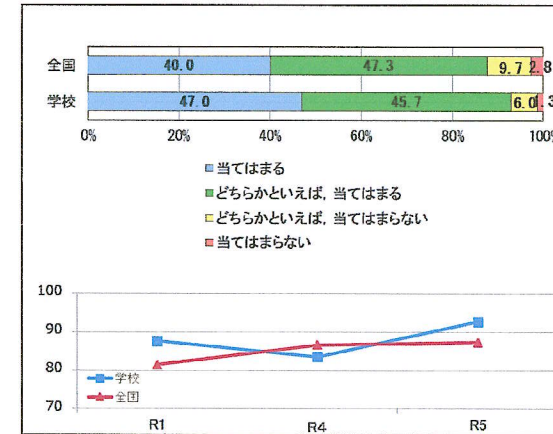
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

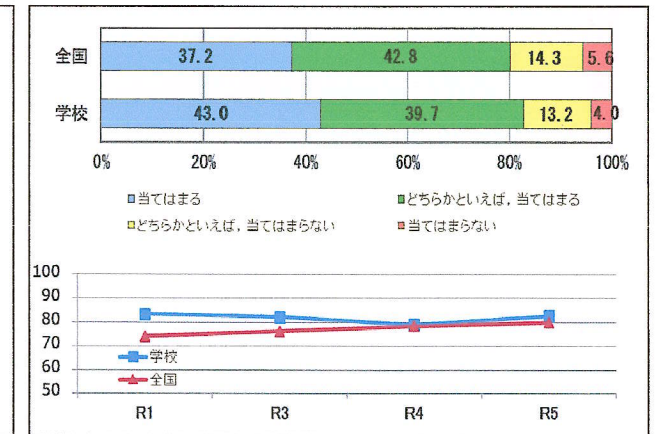
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国
■ 本校

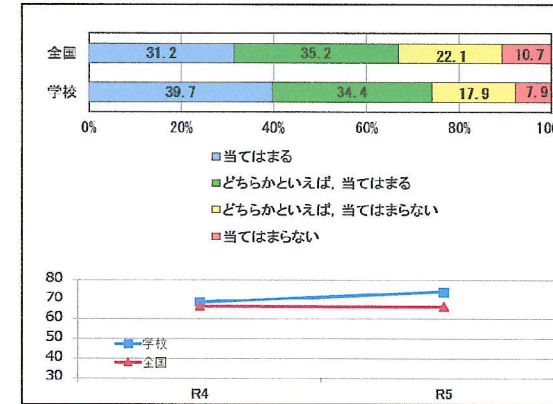
先生は、あなたのよいところを認めてくれている



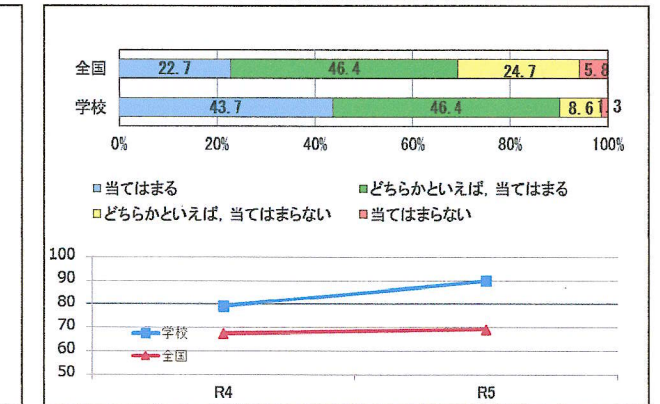
自分にはよいところがある



困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できる。



1, 2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる行動を行っている。



＜質問紙調査結果の概要＞

生徒たちが、学校生活の中で他者との協働で自分の役割を果たし、教師がその姿を認め、成功体験を感じる場面を大切にしてきたことが「自分にはよいところがある」に繋がっていると考えられる。

「1, 2年の時に受けた授業では…」肯定の割合が90%を超えている。

日々の授業において、「めあて・課題」を設定し、学習のゴールを持ち、解決への見通しや目的意識を持ったり、「振り返り」の時間を確保し、学んだことを生徒が自分の言葉で自覚できるようにしたりするなどの授業スタイルの定着が、成果につながっている。

まとめ

今回も国語・数学は、全国平均を上回っており、本年度実施された英語はかなり全国平均を上回った結果であった。課題の解決に向けて、まず自分で考え、話し合い、そして自分の考えを深める授業づくりをこれからも推し進めていきたい。主体的・対話的な深い学びが、生徒の自己肯定感により影響を与えていると考える。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く。

2四

自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く。

	正答率	無解答率
本校	76.0	0.7
全国	67.5	3.9

(考察)

各単元のまとめの中で、内容を理解したうえで、自分の知識や経験などを結びつけて文章を書いたり、それを交流して感想を書いたりすることで、考えを広げたり深めたりする取り組みを続けてきた。生徒たちが毎回の授業を前向きに取り組んできた成果だと考えられる。

【課題】

原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す。

4三

原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す。

	正答率	無解答率
本校	62.7	8.0
全国	50.0	20.7

(考察)

正答率は全国や大阪府を上回っていたが、2割以上の生徒が古文の頻出単語(「いと」=「とても」)の理解が不十分であったため、古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができなかつたのではないかと考えられる。今後は古典に親しみ、自ら古文の学習に取り組む姿勢と知識の習得ができる課題設定を考える必要がある。

<数学>

成果や課題があった設問

【成果】

・空間における平面についての問題
・問題に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。事象を数学的に理解・解釈し、問題解決方法を数学的に説明することができる。

③ 空間における平面が1つに決まる場合について正しく述べたものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 1点をふくむ平面は1つに決まる。
- イ 2点をふくむ平面は1つに決まる。
- ウ 1つの直線上にある3点をふくむ平面は1つに決まる。
- エ 1つの直線上にない3点をふくむ平面は1つに決まる。

【課題】

2年生の3学期に既習する単元で、箱ひげ図の内容。データを読むことに難解な点があった。累積度数については、解答欄にヒントもなく、累積の意味が不確かな点と相対度数とが混乱してしまい、正答率が低かったと考えられる。また、問題の傾向として、複数のデータの分布の傾向と読み取り分析し説明する問題で、他の問題よりも、無答率が高かった。

(2) 二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうですね。」
啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」
一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

	正答率	無解答率
本校	49.3	0.7
全国	30.4	0.8

(考察)

図形についての読解の理解は高く、条件を変えた事柄が成り立つとき、成り立たないときなど説明文をしっかりと読み取ることができている。

	正答率	無解答率
本校	36.7	17.3
全国	33.6	22.8

(考察)

説明すべき事柄について、その根拠と成り立つ事柄を示して理由を説明する問題で、思考力や表現力が問われている。複数のデータから傾向を分析する力をつけるためにも、同じような傾向の問題を活用して、比較して書くという力を育成していく必要があった。

1年生の復習は、折に触れていく。

<英語>

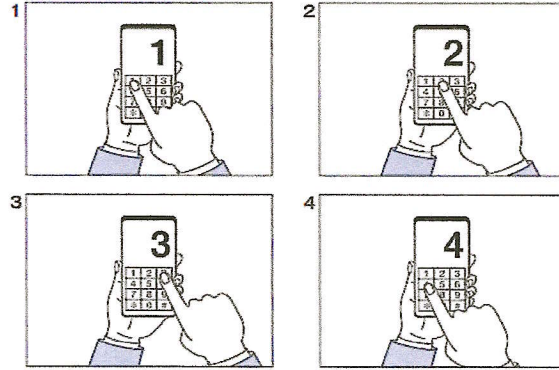
成果や課題があった設問

【成果】

絵を見て、英語を聞いて、問題を解く

2 (放送問題)

あなたは買物からの帰宅後、ショッピングセンターに傘を忘れたことに気が付きました。電話で問合せをしたところ、自動音声案内につながりました。流れてくる音声メッセージを聞き、あなたが選択すべき番号として最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。



	正答率	無解答率
本校	76.0	0.0
全国	61.1	0.2

(考察)

日々の活動で英語でのやりとりの時間を多く設定している。相手の言うことをしっかり集中して聴くという取り組みの積み重ねがこのような結果につながっていると考えられる。今後も英語でのやりとりを大切に、人の意見を聴く時間、人に自分の意見を伝える時間を徹底していきたい。

【課題】

- ・ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く
- ・学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く。

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを公開しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

※ 短縮形(I'mやdon'tなど)は1語と数え、符号(、や?など)は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

	正答率	無解答率
本校	21.3	10.0
全国	7.4	21.4

(考察)

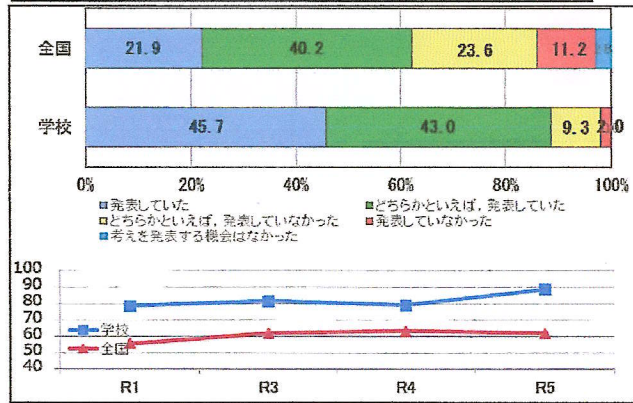
どの問題においても、自分の意見や考えを英語で書くことが求められている。その問題形式に生徒が慣れていないため、改善の必要がある。高校受験では、このような問題が出題されることが多いため、今後は書き方や語数制限付きの問題に慣れさせ、書く力を身につけさせることが必要である。

質問紙に関する調査

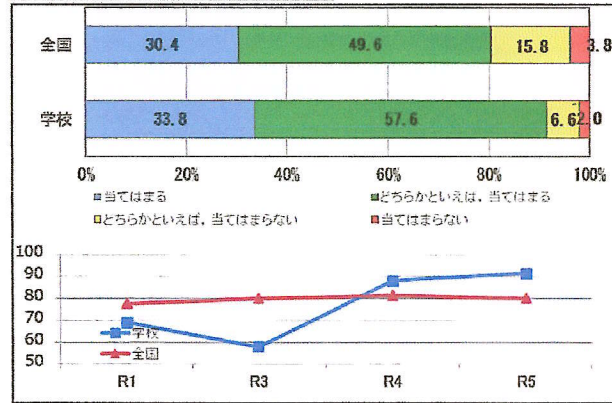
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

【成果のあった項目】

授業では、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

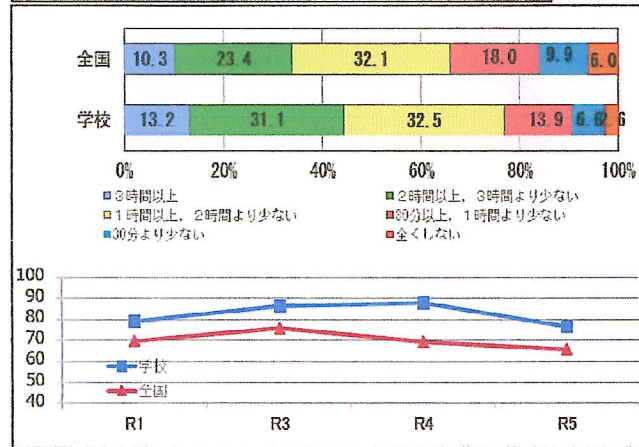


国語の授業の内容がよくわかる。



▲ 全国
■ 本校

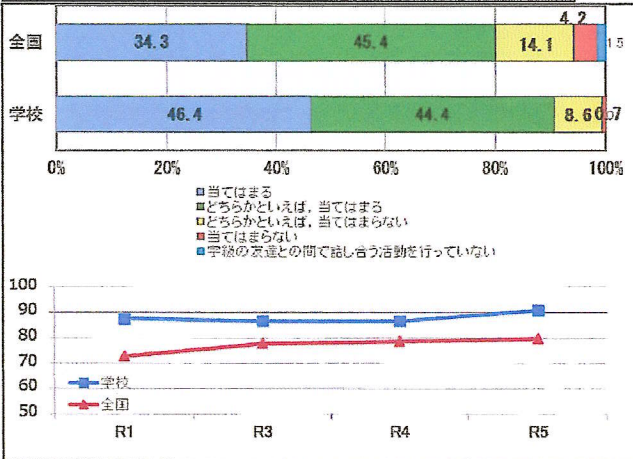
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、に1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。



(考察)

「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合が低く、自分の将来について、より具体的なイメージや希望がもてるキャリア教育の充実を図る必要がある。
 「自分で計画を立てて勉強をする。」の項目について課題を感じる。家でも主体的に学習に取り組めるように、定期テストや授業後の課題を見つめられるような取り組みを考えていく。

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



成果のあった項目(考察)

「授業で自分の考えを発表する機会では…」 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて…」の項目で強い肯定がどちらも45%を超え、本校の研究テーマ「生徒の主体性を育む授業づくり」の取り組みの成果が見られる。
 授業改善として、課題解決型の授業、言語活動の充実、学びあいの態度、発表時のスキルの向上の充実を図ってきたことが、「国語の授業がよくわかる」の肯定につながったと考えられる。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

「生徒が話し合いや発表する活動を通して自分の考えを深めたり広げられた。」という肯定的な回答が高いことから、授業改善の成果が見られる。話し合いなど協働的な学習の場や発表の場を多く設けたことが、「各授業の内容がよくわかる」に繋がったと考えられる。資料や文章、話の組み立ての工夫などに重点を置き、発表(話すこと)の質を高めるとともに、この言語活動を通して自分の考えを深められる授業づくりを、さらに推し進めていく。

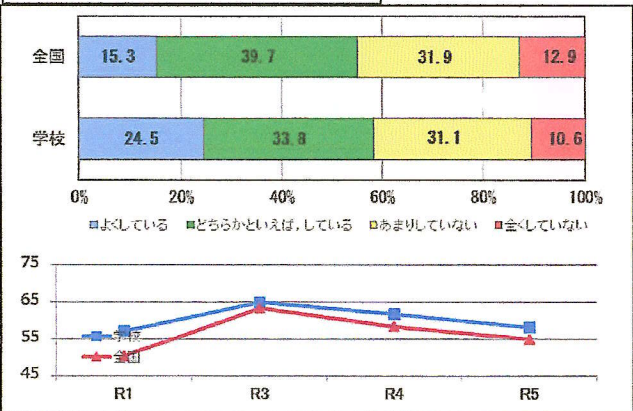
他校への授業視察も行い、授業力の向上を図る。

また、支援の観点も含めて視覚的に理解できる内容も取り入れていく。これらの取り組みを教師間で交流するために、学期ごとの各学年研究授業や相互授業参観を行う。

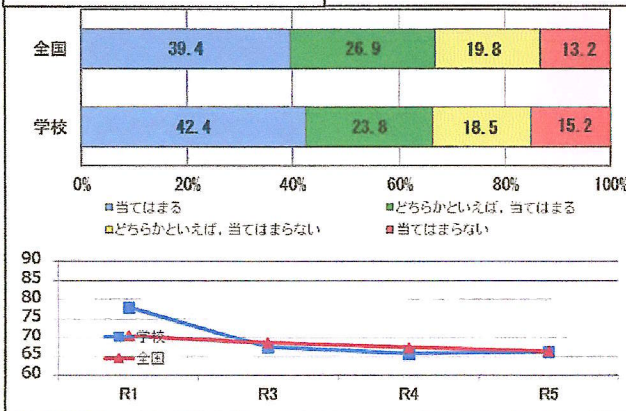
今年の研究テーマである「他者とつながる力」「多面的に考える力」「未来を予測、計画する力」を教科を超えて育てていく。

【課題が残った項目】

自分で計画を立てて勉強している



将来の夢や目標を持っている



(2) 家庭学習について

テスト前学習計画表を配布し、自分で課題を考え、目標を立てさせ、テスト後に振り返らせる。この取り組みは今後も検討していく。

単元テストを実施し、短期間ごとに理解度の確認を行うことで、自ら課題を見つける。タブレットドリルやアプリを活用して、課題を配信し予習復習できるようにし基礎学力の定着を図る。問題集は単元ごとに提出日を提示し、各自で計画的に学習できるよう声をかけていく。